

# 人工知能基本計画

未来社会の設計図：AIレディな国家の構築

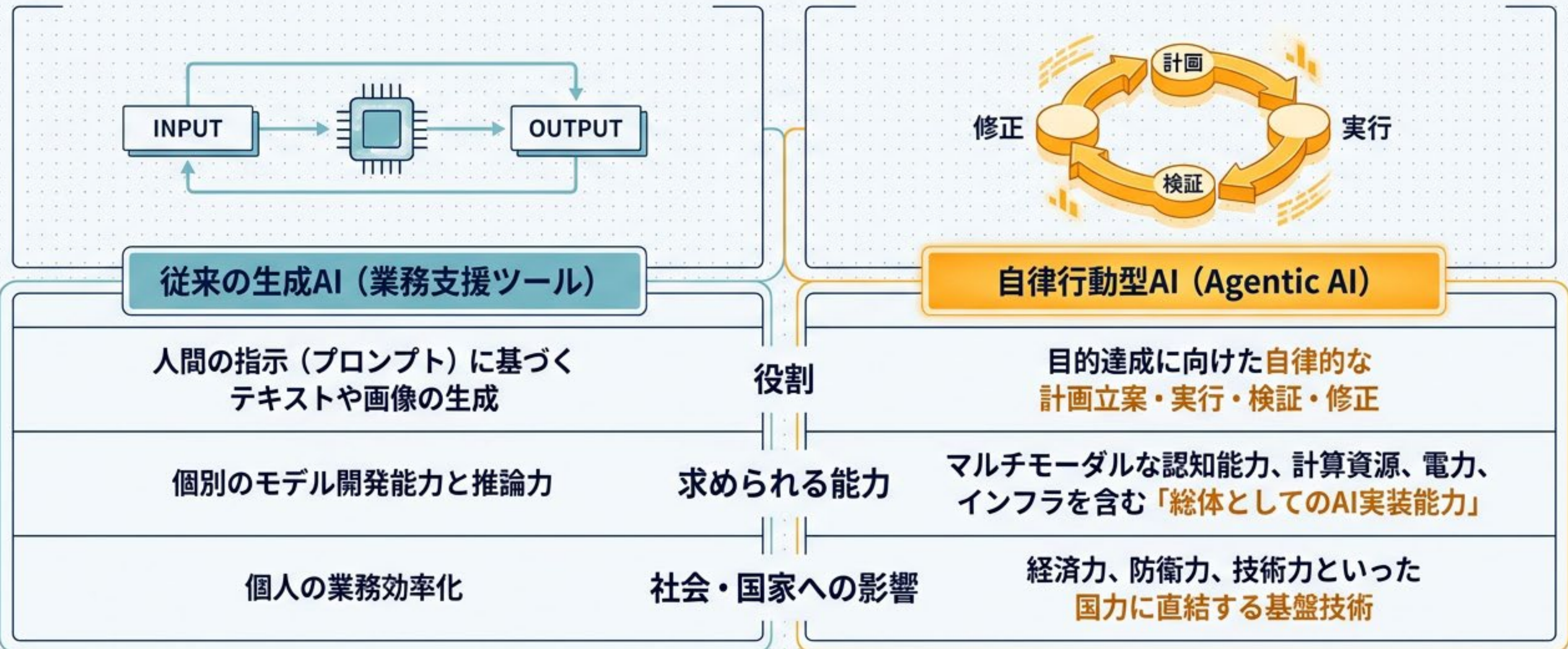
「信頼できるAI」による日本再起と社会全体の  
AX (AIトランスフォーメーション) の実現

内閣府 人工知能戦略本部



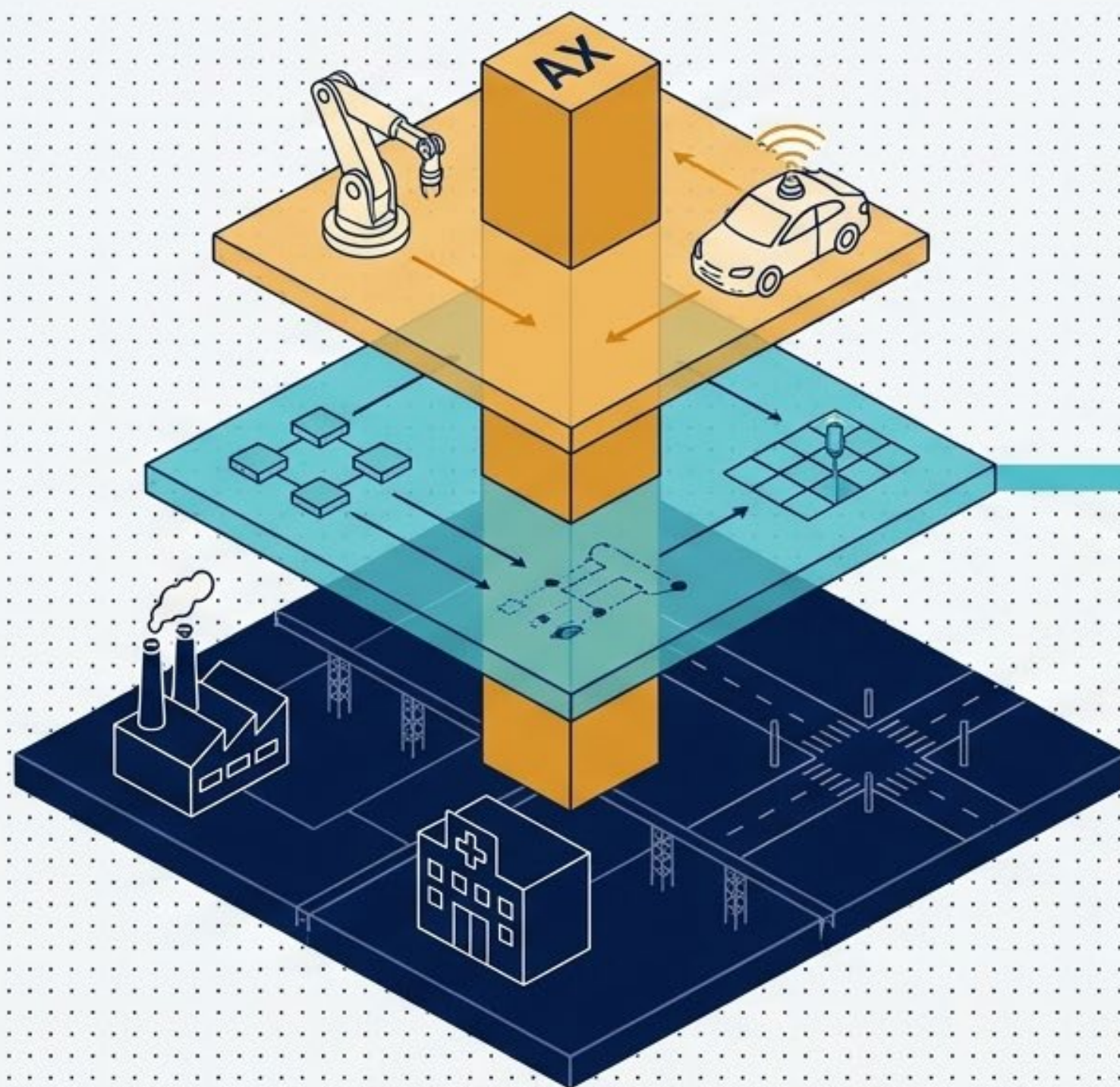
# パラダイムシフト：ツールとしてのAIから「自律行動型AI」へ

AIは対話による業務支援ツールから、組織や社会の意思決定と実行を担う主体へと急速に進展している。



# 日本の勝ち筋：「バーティカルAI」×「フィジカルAI」

我が国の財産である「現場の力」と「暗黙知」をAIの実装能力に変換し、独自の価値を生み出す。



## バーティカルAI（領域特化型AI）

産業や行政の現場に特化。暗黙知を含めた各現場の経験や知識をデータとして集積・精製。

## フィジカルAI（物理空間への適用）

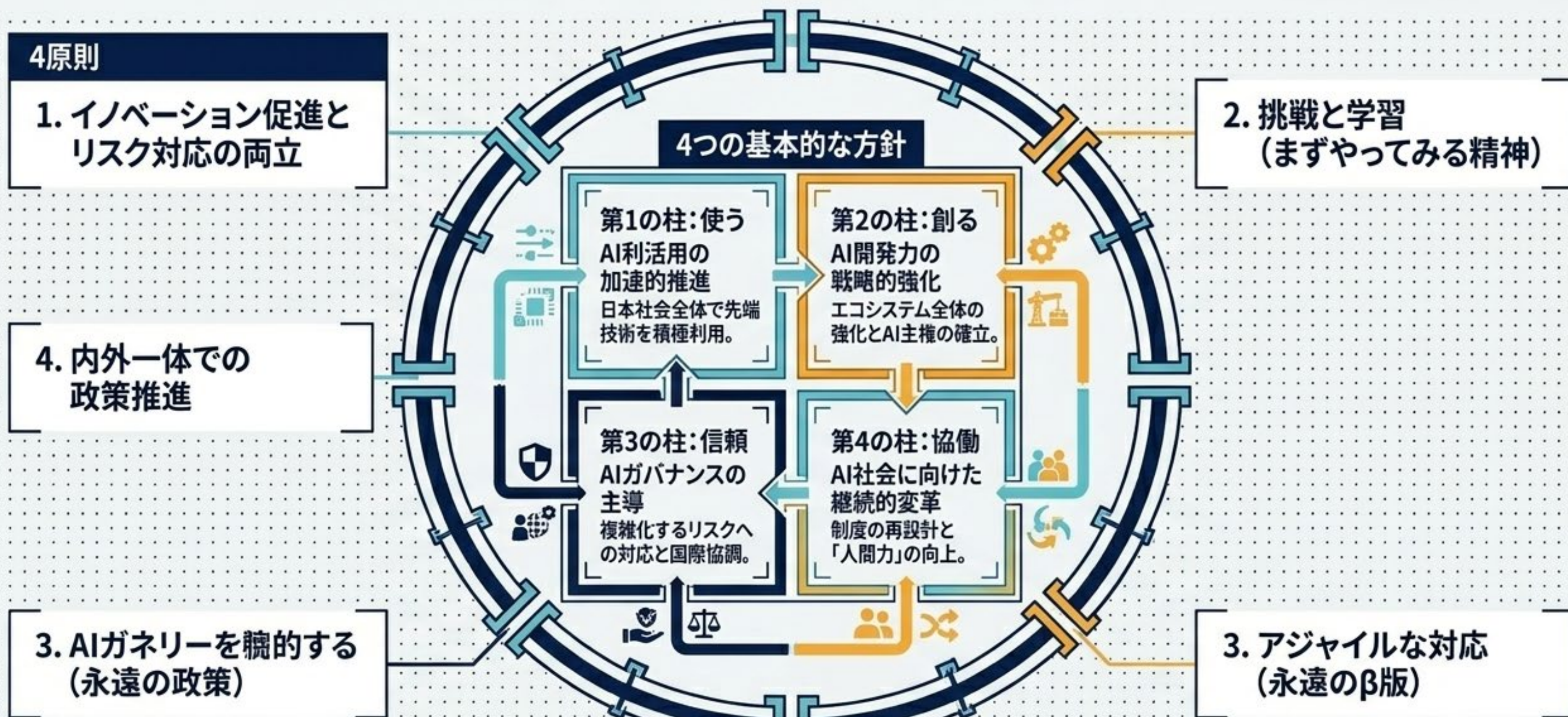
現実空間を理解し、機械や装置（ロボット・自動運転等）を通じて現実世界で物理的行動を生成。

## 独自のAX（AIトランスフォーメーション）

自律行動型AIを製造、サービス、インフラに深く組み込み、社会課題を解決。日本の「信頼性」をデジタル空間で再現する。

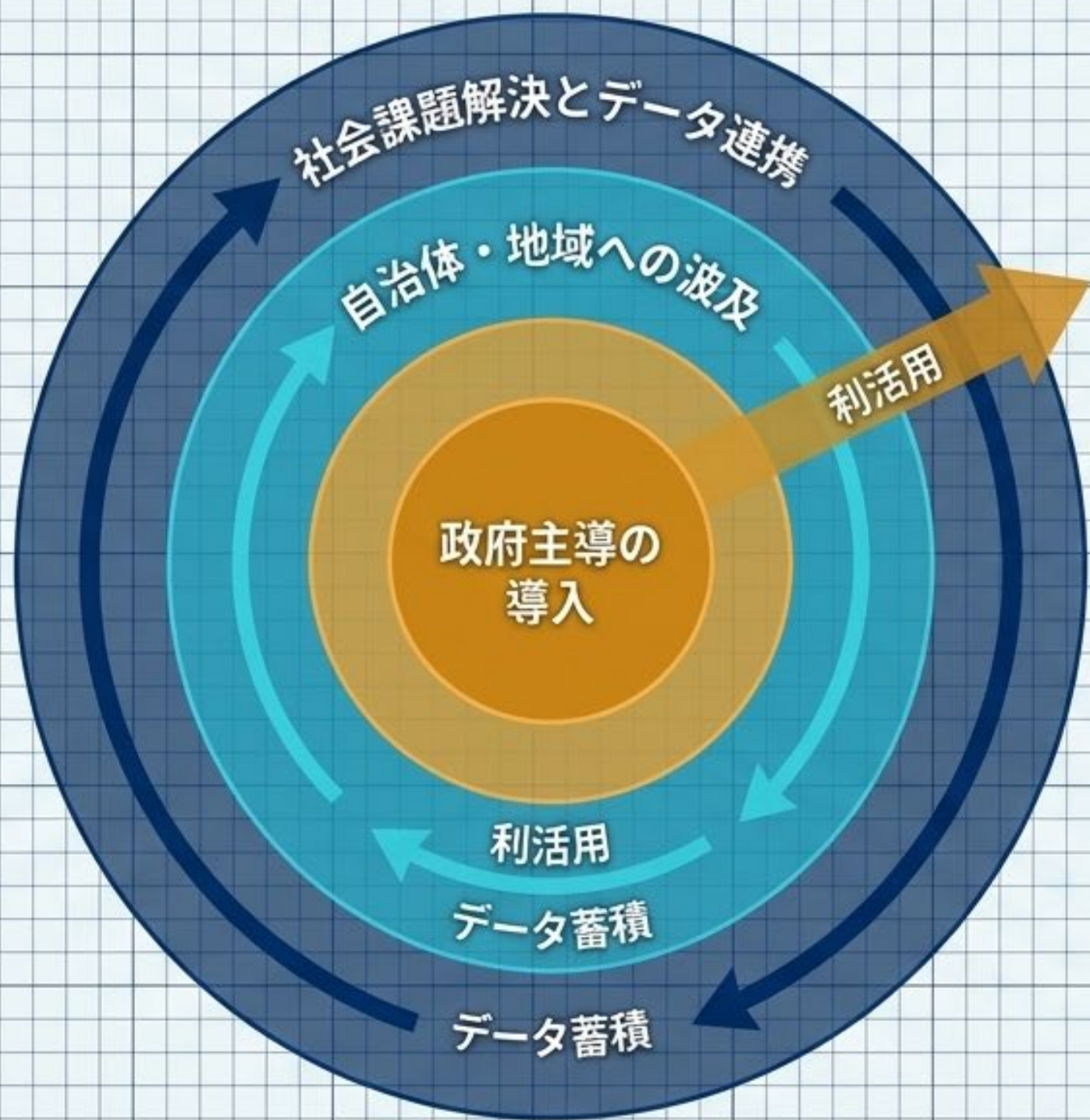
# 人工知能基本計画：マスターフレームワーク

社会全体のAIを牽引するための4つの原則と、それを実行に移す4つの基本方針。



# 第1の柱：利活用の加速的推進（好循環の起点）

「隗より始めよ」の精神。政府自らが先導的ユーザーとなり、社会全体に利用機運とデータ集積の波及効果を生む。



## 政府主導の導入

- ・ガバメントAI「源内」：国内最大規模18万人の政府職員が利活用。特定の基盤モデルに依存しない選択と運用。
- ・自律行動型AIの先導的調達とルール整備。

## 自治体・地域への波及

- ・自治体AX：「源内」のオープンソース化を通じた導入支援、業務の自動化。
- ・地域AX：中堅・中小企業への導入支援、リソース制約の克服。

## 社会課題解決とデータ連携

- ・医療、防災、インフラ等でのパーティカルAI実装。
- ・完全な構造化を待たない「現場データ」の連携と活用（ジオAI等）。

## 第2の柱：開発力の戦略的強化と「AI主権」

特定の国や企業への過度な依存を避け、  
日本独自のAIエコシステムを自律的に構築・運用する。

- ・領域特化型システムによるAIと産業の垂直統合。
- ・オープンソース/オープンウェイトのAIモデル開発拠点化。  
・エネルギー効率に優れたマルチモーダル基盤モデルの開発。
- ・オープン・アンド・クローズ戦略に基づくデータスペース技術 (Open Data Spaces)。  
・質の高い日本語データの整備と拡充。
- ・高性能AI半導体の研究開発・サプライチェーン強化。  
・次世代フラッグシップスーパーコンピュータの開発 (富岳の次世代)。
- ・データセンターの戦略的国内配置 (GX連携)。  
・次世代情報通信基盤 (Beyond 5G) とオール光ネットワーク。



開かれたAI主権の確立

## 第2の柱：3つの重点研究開発フロンティア

基礎研究から社会実装までの距離を縮め、  
現場データを活用した開発の好循環を創出する。



### バーティカルAI (領域特化)

- ・製造業、素材産業、造船業など「暗黙知」が豊富な現場での開発・実装。
- ・データ、モデル、アプリを垂直統合し、国際競争力あるシステムを輸出。



### フィジカルAI (物理・ロボティクス)

- ・多用途ロボットの国産メーカーやシステムインテグレーターの育成。
- ・より高度な自動運転技術の導入と国際基準の主導。
- ・アクチュエーターやセンサ等、サプライチェーンの強靱化。



### AI for Science (科学技術)

- ・科学的発見を飛躍的に高める「AIエージェント駆動型の研究パイプライン」構築。
- ・新薬開発の効率化に資する創薬AIの推進。
- ・計算・データ・実験基盤の一体的な高度化。

# 第3の柱：責任あるアジャイル・ガバナンス

偽情報や自律型サイバー攻撃など複雑化・深刻化するリスクに対し、3つのアプローチを統合して能動的に対応する。



## 技術による対応

- AISI (AIセーフティ・インスティテュート) の機能抜本強化: モデルの技術的評価、ガードレール構築。
- AI生成コンテンツを判別する電子透かし等の技術開発。

## 制度による対応

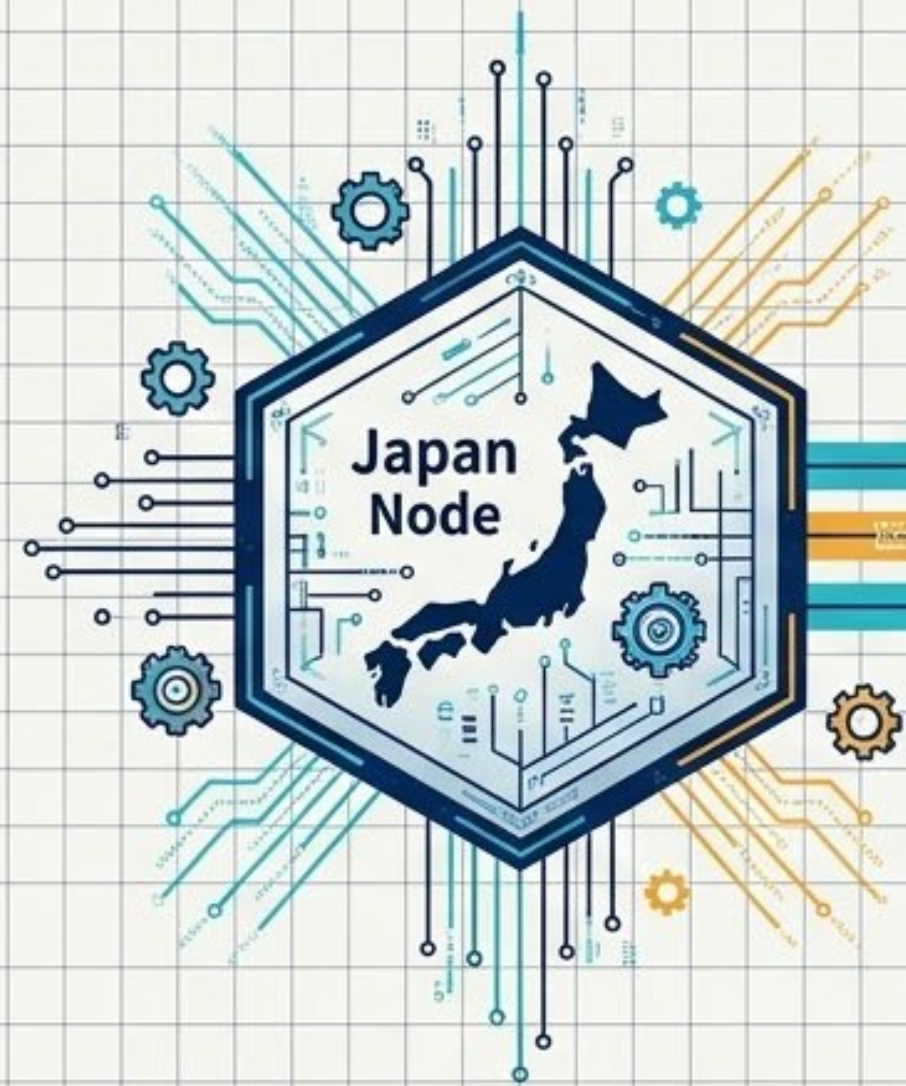
- AI法を含めた法制度やガイドラインの不断の見直し。
- 行政AIエージェント導入ルールの整備と権利侵害への対応。

## 組織管理による対応

- Project YATA-Shield: 高性能AIを活用した重要インフラの脆弱性点検とサイバー防御の強化。
- 経営層のリーダーシップによる組織全体のリテラシー向上。


# 第3の柱：国際的なAIガバナンスの主導

「広島AIプロセス」の実績を基盤に、日本が多様なAIイノベーションの結節点（ノード）となる。




### ルール形成の主導 (Hiroshima AI Process)

高性能AIのガバナンスに関する国際的な議論を主導し、米国CAISI・英国AISI等と技術評価ネットワークを構築。



### グローバルサウスとの共創 (ASEAN & Global South)

多様なAIエコシステムの自立的発展を支援。インフラ展開や能力構築（キャパシティ・ビルディング）を通じた共創モデルの構築。



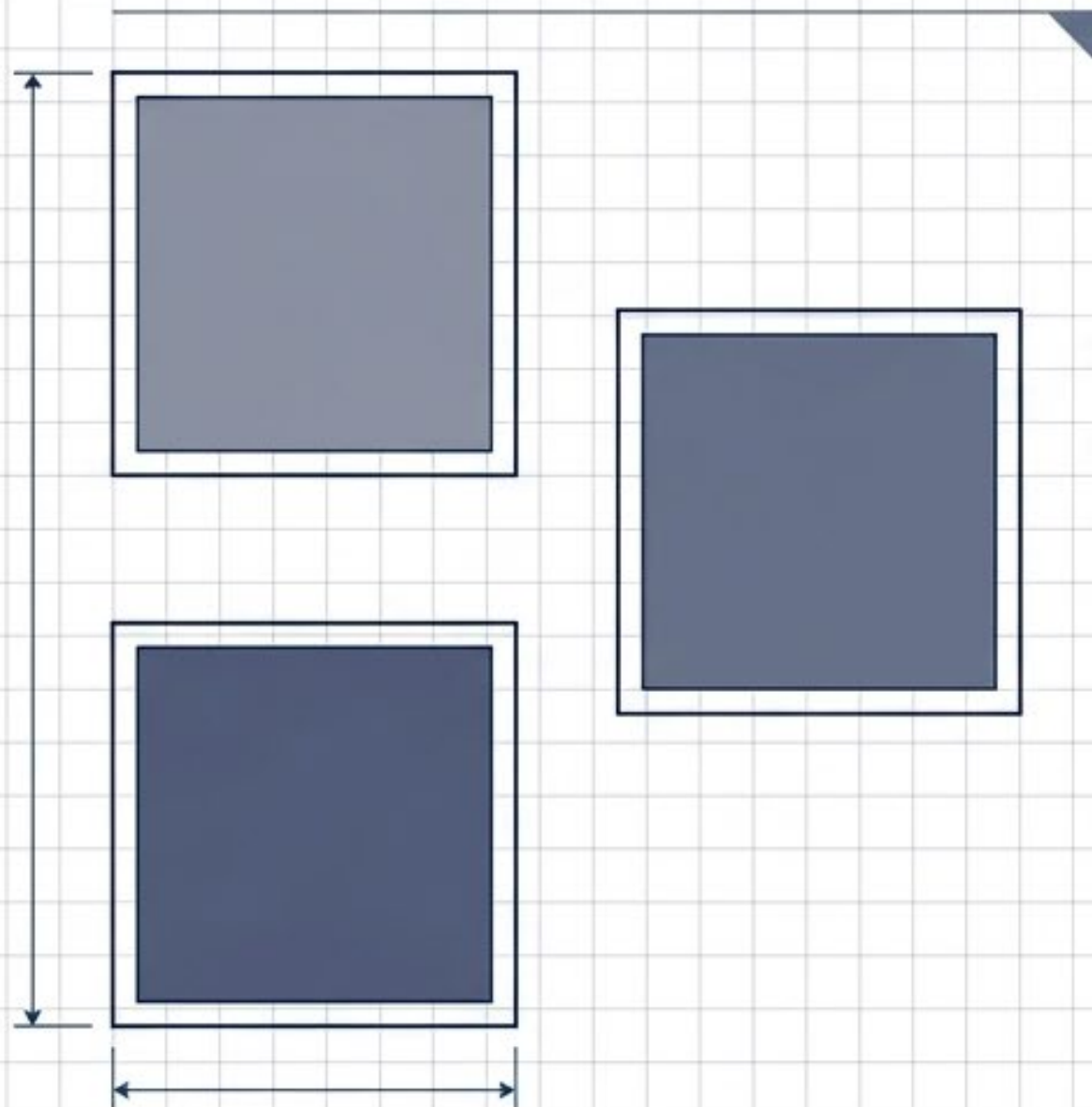
### 国際標準化 (ISO / IEC)

相互運用性の確保を重視し、ISO/IEC JTC1等におけるAI関連の国際規格・標準化活動へ積極的に参画。

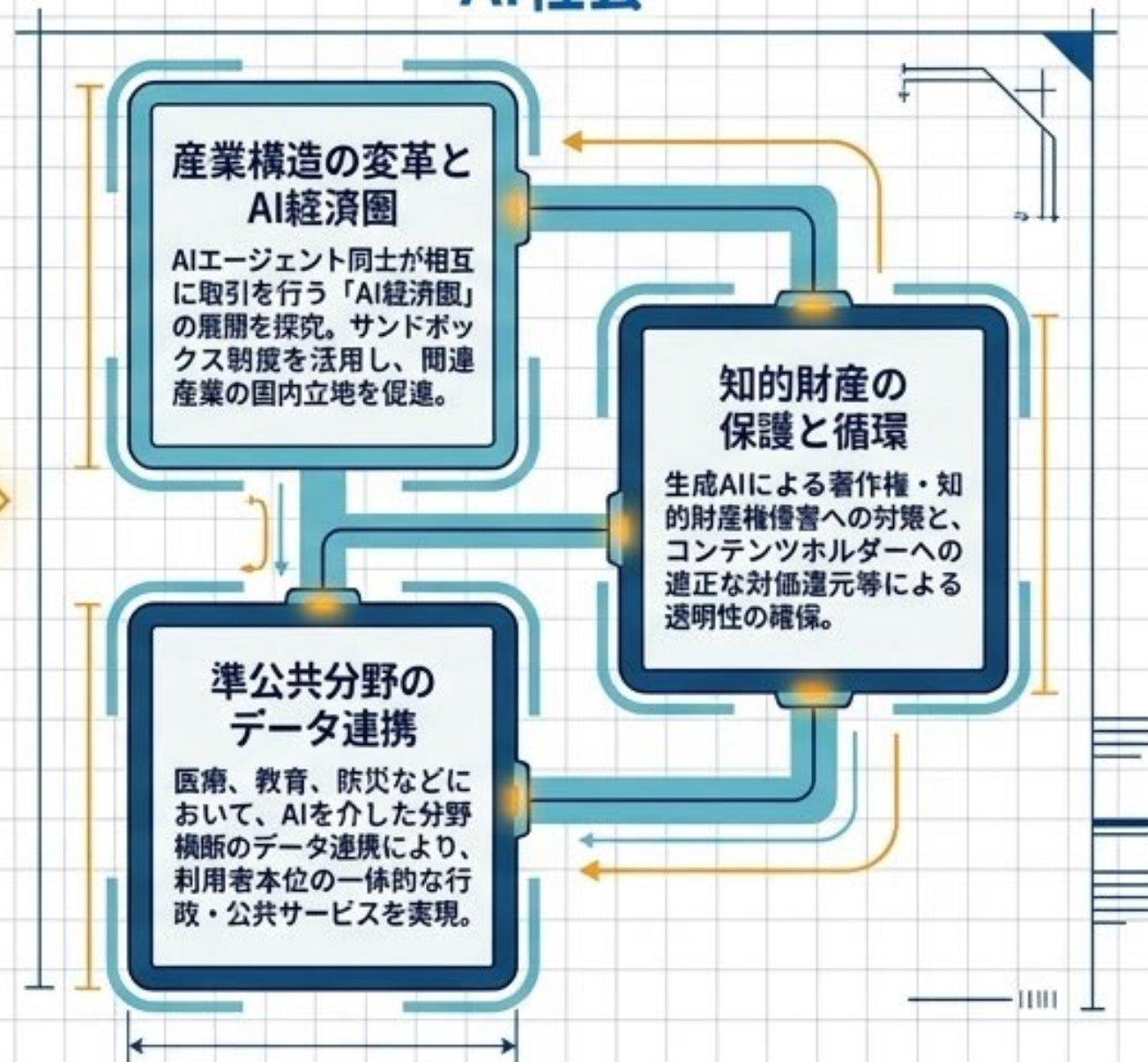
# 第4の柱：AI社会に向けた継続的変革（社会AX）

単なるツール導入に留まらず、社会の制度、雇用、知的財産をAI前提（AI-Native）で再構築する。

従来の社会



AI社会



# 人間中心のAI社会：「人間力」と5つのAI人材像

AIの普及により、判断責任を果たす「人的主体性（Human Agency）」と、AIを使いこなす専門性がかつてなく重要になる。

## 5つの人材像



## 「人間力」の増進

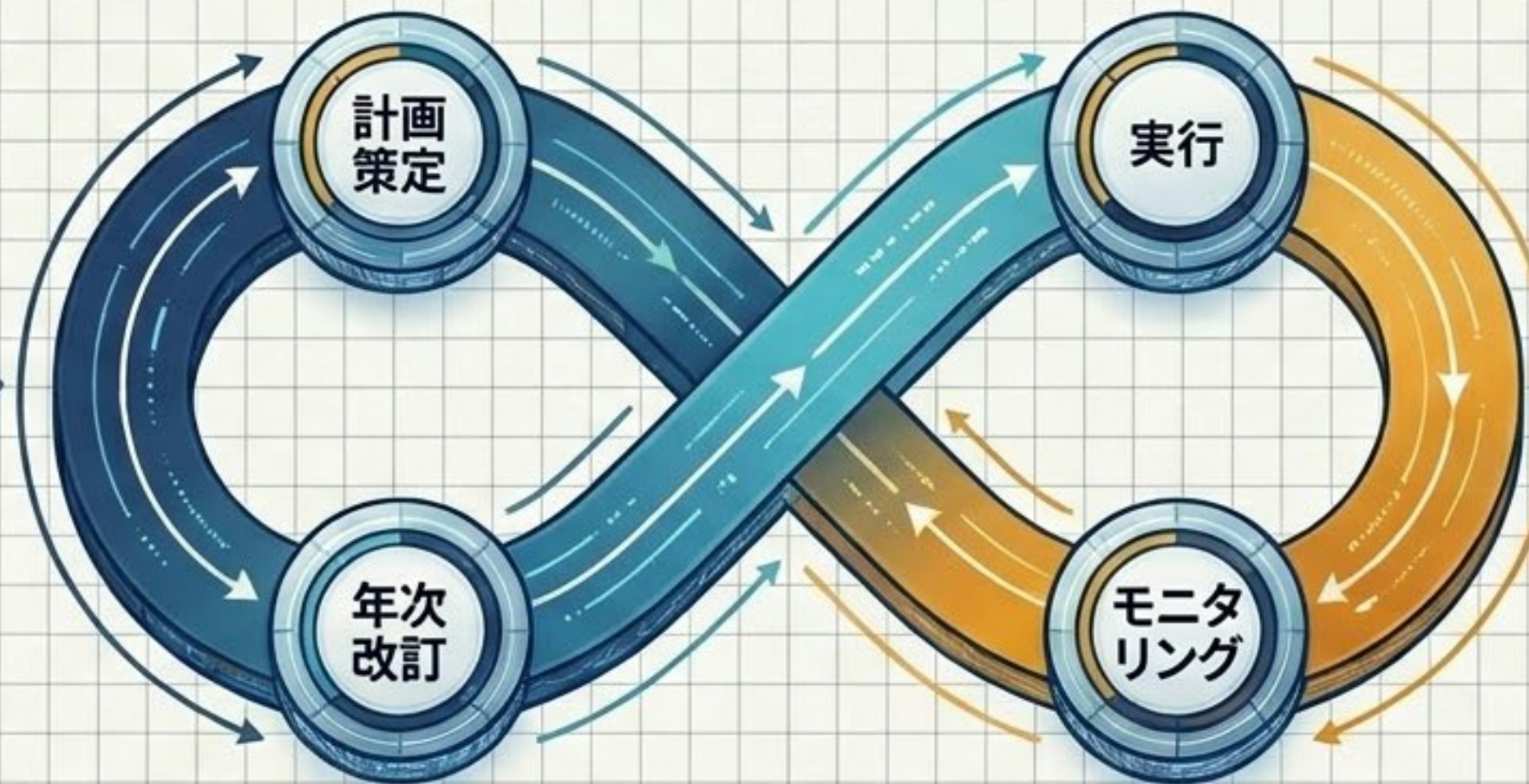
- AIへの過度な依存（浅慮）を回避し、批判的思考力、課題設定能力を育成。
- リベラルアーツ教育や「手触り感ある経験（オフライン学習）」の重視。
- Human in the loop / on the loop / in the lead の役割分担の探求。

# 推進体制と「永遠のβ版」アプローチ

技術進化の速度に対応するため、計画は完成形ではなく「永遠のβ版」としてアジャイルに更新し続ける。

## 実行メカニズム

- 人工知能戦略本部（内閣総理大臣トップ）と産学官協議会による府省庁横断の強力な推進体制。
- 具体的な具体像の実現に向けた適切なベンチマークの設定と継続的なモニタリング。



## アジャイルなサイクル

当面は毎年、基本計画を見直し・変更。社会情勢、技術動向、リスク事案を即座に反映し、制度と運用のPDCAサイクルを高速回転させる。

「信頼できるAI」で社会全体を駆動し、世界で最もAIを開発・活用しやすい国へ。